

事務事業チェックシート

評価年度	H24	H25	H26	対象外
	○			

事務事業No 774 事業名 市史資料管理事業

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費
	その他		
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務
	その他		
会計・予算区分	会計		一般会計
	款		教育費
	項		社会教育費
	目		博物館費
	大事業		博物館事業
	事項		市史資料管理事業

分野別目標	5	子どもが輝き、文化が薫る教育のまち
政策	4	文化・スポーツの振興
施策	1	文化遺産の保護・継承
取組	1	文化遺産の保護・継承

事業種別	継続	主な事務事業
事業期間		～
関連個別計画		
担当課・担当課長 (Tel)	博物館	寺西 貞弘 (423-0003)
関連課		

「3つの磨き」との関連性

「市民力を磨く」		「基盤力を磨く」		「観光力を磨く」		該当せず
コミュニティーの充実		メリハリある都市づくりの充実		史跡和歌山城の充実		
市民の健康環境の充実		道路・公共交通網の充実		海を生かした観光シフトの充実		
総合的な子育て環境の充実	○	総合防災体制の充実		美味しい和歌山市イメージの充実		
その他		その他		その他		

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする）ための事業か	事業内容				
	和歌山市史編さん事業の完了に伴い、市史編さん室が蒐集した資料の管理を行うとともに、その有効活用を行うことによって、市民文化の向上に寄与する。	『和歌山市史』の著作権管理を行うとともに、市史関係資料の翻刻を行い、同飼料の有効活用に資するため、年1回『和歌山市史研究』（300部）を発行する。同誌は、全国他都市から寄贈される市史の交換資料として活用する他、公共図書館に寄贈し、広く勝つように供している。				
実施内容		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		市民に対して有効な未公開資料を活性化し、「市史研究」として毎年発刊	市民に対して有効な未公開資料を活性化し、「市史研究」として毎年発刊	市民に対して有効な公開資料を活性化し、「市史研究」として毎年発刊	市民に対して有効な未公開資料を活性化し、「市史研究」として毎年発刊	市民に対して有効な公開資料を活性化し、「市史研究」として毎年発刊

2 事業コスト

事業費 千円		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		
		予算	決算	予算	決算	予算	決算	計画	決算	計画	決算	
	事業費	331	271	333	233	273	311	273			273	
	伸び率 (%)	-	-	0.6%		-18.0%		0.0%			0.0%	
	人件費	常勤職員	1,492	0	1,492	0	0	1,769	1,769			0
		非常勤職員	782	1,139	782	1,211	1,211	797	797			1,211
		小計	2,274	1,139	2,274	1,211	1,211	2,566	2,566			1,211
	国庫支出金											
	県支出金											
	市債											
	その他	44	37	44	44	44	79	44			44	
	一般財源(税等)	287	234	289	189	186	232	186			186	
所要人数	常勤職員	0.19	0	0.19	0	0	0.23	0			0	
	非常勤職員	0.54	0.56	0.54	0.48	0.48	0.22	0.48			0.48	

3 目標及び実績

活動指標	指標名及び達成状況				平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	年間市史研究発刊回数	年度目標値			1	1	1	1	1
		実績値			1	1	1		
	単位	回	全体目標値	1	全体目標達成度	100.0%	100.0%	100.0%	
	年度別達成度	年度目標値							
		実績値							
単位		全体目標値		全体目標達成度					
成果指標	県内外寄贈公開機関数				平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	年度別達成度	年度目標値			179	179	181	181	181
		実績値			179	181	180		
	単位	ヶ所	全体目標値	179	全体目標達成度	100.0%	101.0%	99.4%	
	年度別達成度	年度目標値							
		実績値							
単位		全体目標値		全体目標達成度					

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)	○	おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 事業の方向性

方向性	A 計画どおり事業を進めることが妥当	B 1 事業の充実に向けた見直し	担当課評価 (所属長記載) A
	B 見直しのうえで継続	B 2 コスト削減・成果上昇	
	C 終了	B 3 類似事業との統合	
	D 休止	B 4 外部委託導入・拡大	
	E 廃止	B 5 受益者負担の適正化	
		B 6 終期設定	
		B 7 その他効率化	

担当課評価の根拠	市史研究は、本市の根幹であり、さらに詳しい研究が必要である。
「見直し」 「改善」案 ※上記、担当課評価が「B」評価の場合のみ	